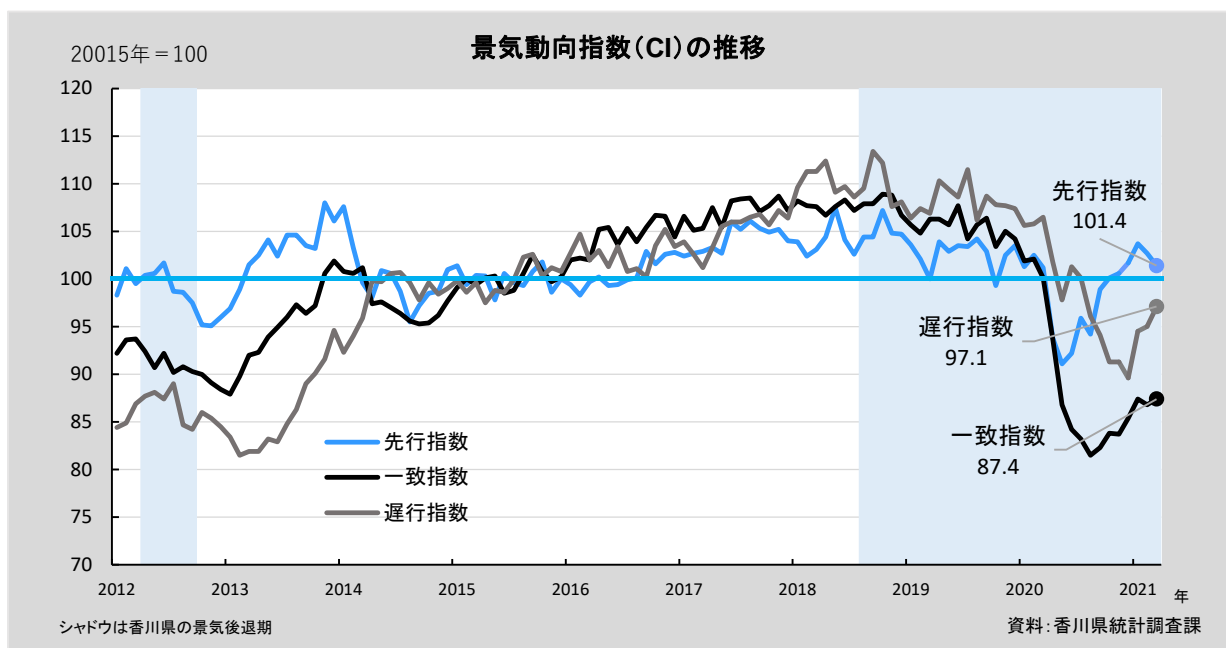


概況	景気は持ち直しつつあるが、感染再拡大の影響で弱い動きとなっている。
個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
住宅投資	横ばい圏内の動きとなっている。
公共投資	高水準で推移している。
生産活動	緩やかに持ち直している。
雇用情勢	弱い動きとなっている。
貿易	輸出・輸入ともに弱い動きとなっている。
観光	弱い動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI)

一致指数 2カ月ぶり上昇



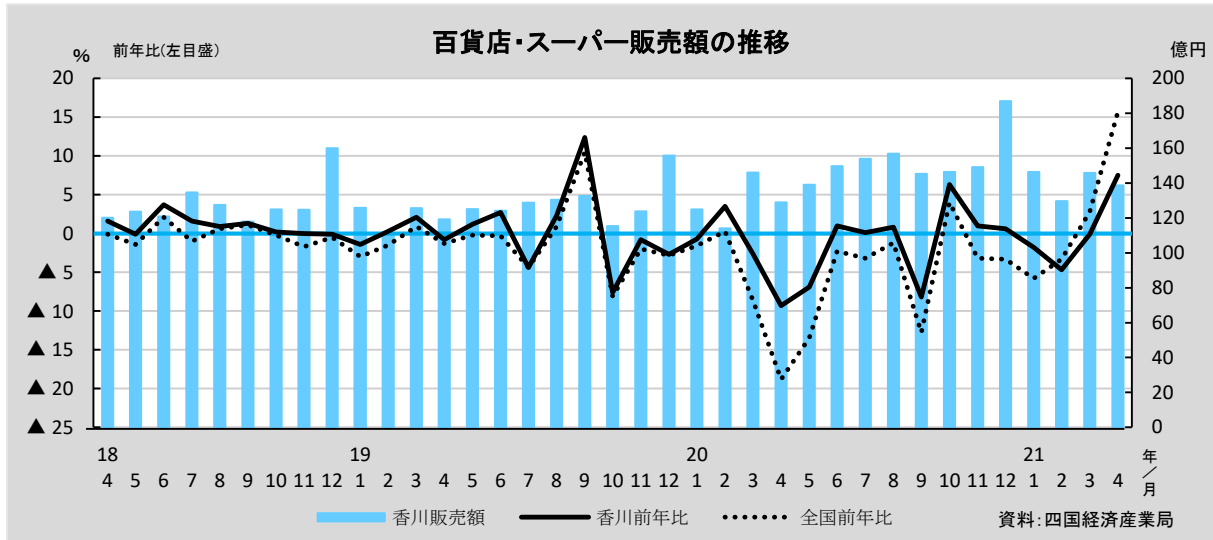
景気の現状をみると、3月のCI一致指数は87.4（前月比+0.6ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は101.4（同▲1.3ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は97.1（+2.1ポイント）と3カ月連続で上昇。

景気の現況を示す一致系列の個別指標では、百貨店・スーパー既存店販売額、鉱工業生産指数等が上昇に寄与したことにより、前月から0.6ポイント上昇。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.21	1 雇用保険受給者実人員		0.08	1 常用雇用指数	▲ 0.14	
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.17	2 有効求人倍率		▲ 0.91	2 有効求職者数	0.00	
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.36	3 所定外労働時間指数		0.19	3 消費者物価指数	0.75	
	4 生産財生産指数	▲ 0.03	4 鉱工業生産指数		0.68	4 家計消費支出	0.86	
	5 新設住宅着工戸数	▲ 1.04	5 鉱工業出荷指数		0.30	5 鉱工業在庫指数	0.27	
	6 金融機関貸出残高	0.25	6 建築着工床面積		▲ 0.66	6 法人事業税調定額	▲ 0.68	
	7 消費者態度指数	1.50	7 百貨店・スーパー 既存店販売額		0.97	7 第3次産業活動指数	1.26	

●百貨店・スーパー販売額

4カ月ぶり増加 ↑



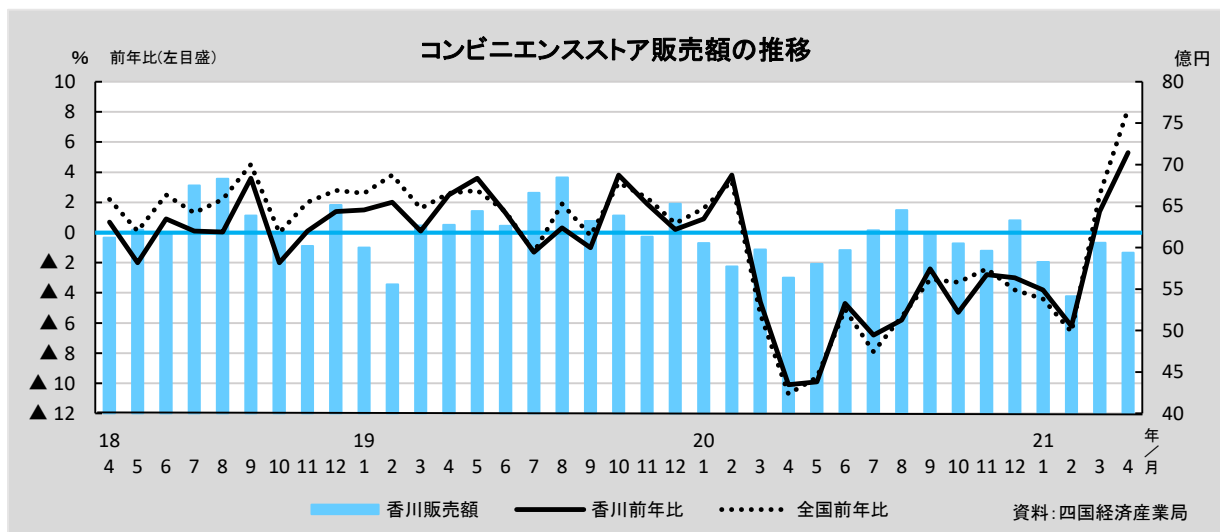
2021/4月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	94,163	52,380	1,029,824	1,538	6,230	24,794	177,403	357	1,386,689
前年同月比(%)	104.7	106.4	0.1	8.8	28.1	▲71.6	83.7	106.4	7.5

4月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は138.7億円で前年同月比+7.5%となった。前年4月は緊急事態宣言で売り上げが落ち込み、ほとんどの品目で反動増がみられ、「衣料品」、「身の回り品」等が前年を上回り4カ月ぶりに増加した。

一方、「家庭用品」は前年同月の反動減で▲71.6%となった。

●コンビニエンスストア販売額

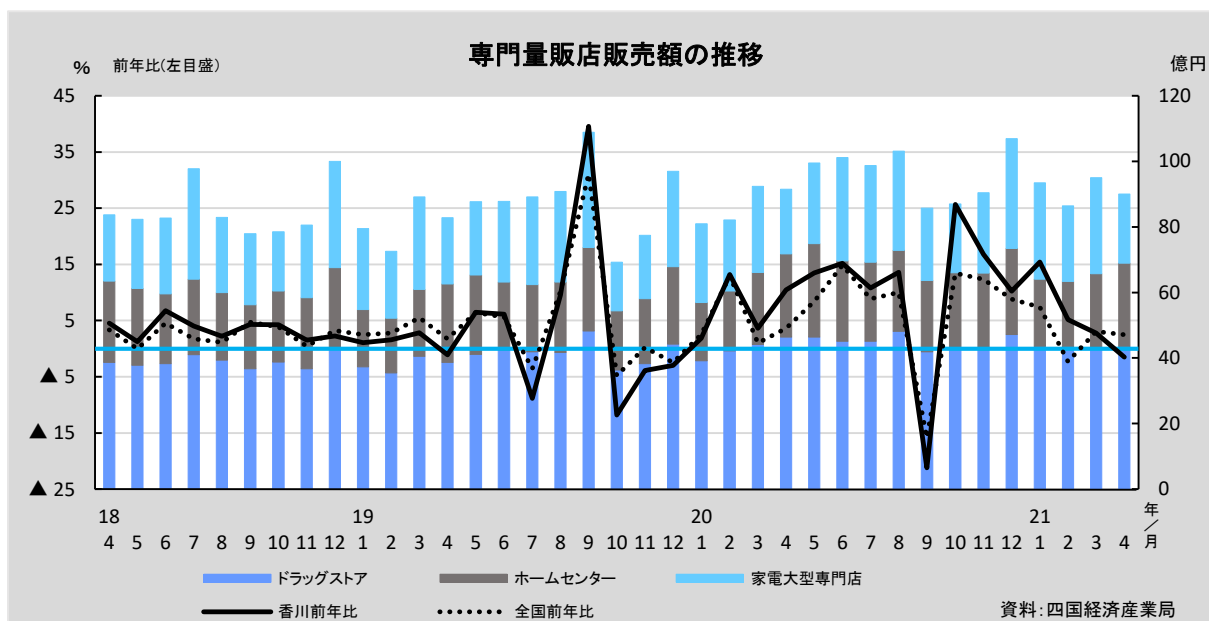
2カ月連続増加 ↑



4月のコンビニエンスストア全店(407店)の販売額は59.4億円で、前年同月比+5.3%となった。冷凍食品・アルコール飲料などが好調に推移したほか、マスクなどの衛生用品が前年を上回り2カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

7 カ月ぶり減少

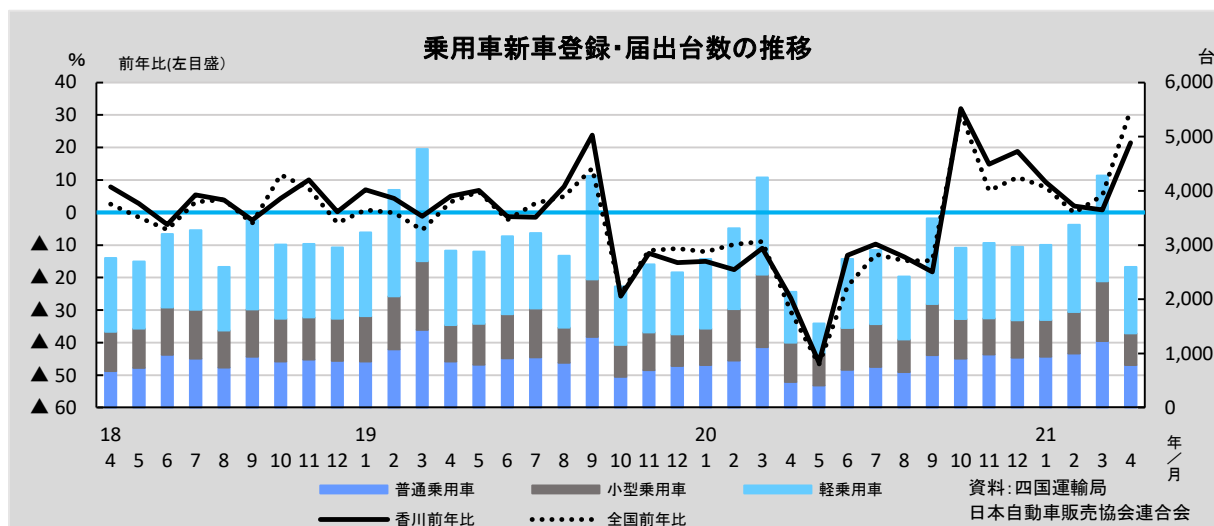


4月の専門量販店全店（202店）の販売額は90.1億円で、前年同月比▲1.5%と7カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、携帯電話が伸長し家電大型専門店（29店）の販売額は、21.2億円で前年同月比+7.7%となった。ドラッグストア（129店）の販売額は、衛生用品などの需要が急増した前年の反動減がみられ、43.6億円で同▲6.0%。ホームセンター（44店）はDIY用具・素材、園芸用品などが堅調に推移したが、衛生用品に反動減がみられ、販売額は25.3億円で同▲0.4%となった。

● 乗用車新車販売台数

7 カ月連続増加




4月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,596台で、前年同月比+21.5%と7カ月連続で増加となった。コロナ禍以前の2019年4月と比べると▲10.4%。

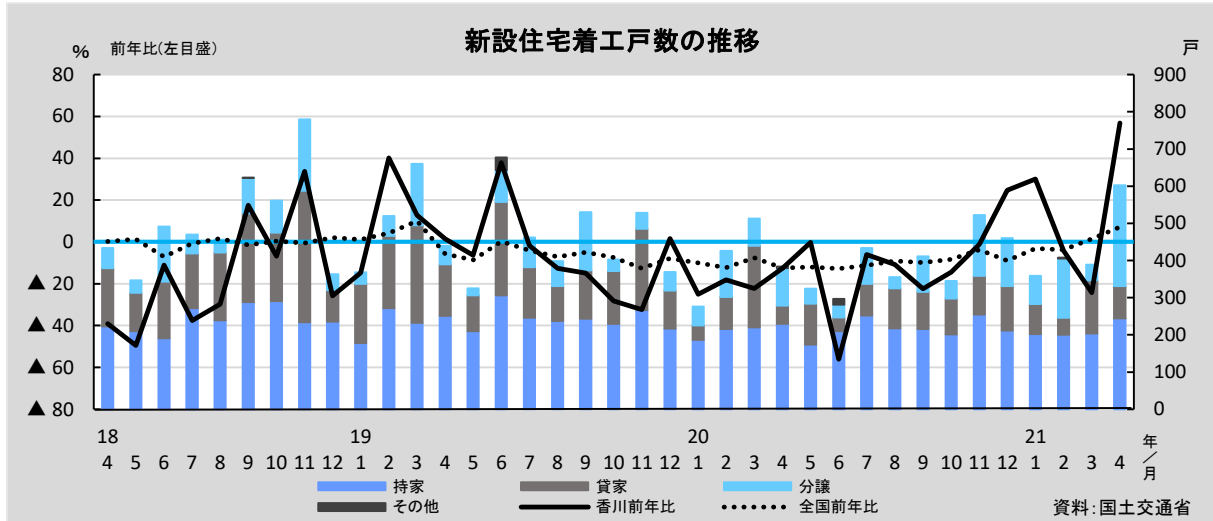
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+66.1%、軽乗用車で同+30.4%と増加した。小型乗用車は、半導体不足による減産の影響で同▲19.5%となった。

住宅投資

横ばい圏内の動きとなっている

●新設住宅着工

3 カ月ぶり増加 




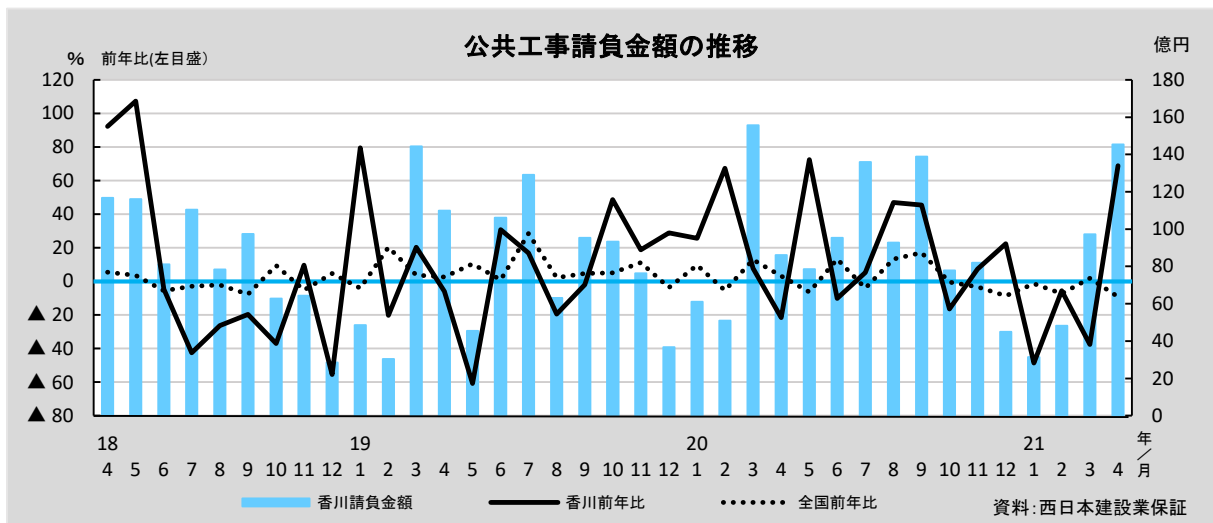
4月の新設住宅着工戸数は602戸で、前年同月比+56.8%と、3か月ぶりに増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+6.1%、**貸家**で同+77.6%、**分譲住宅**で同+171.0%となった。

公共投資

高水準で推移している

●公共工事請負金額

4 カ月ぶり増加 



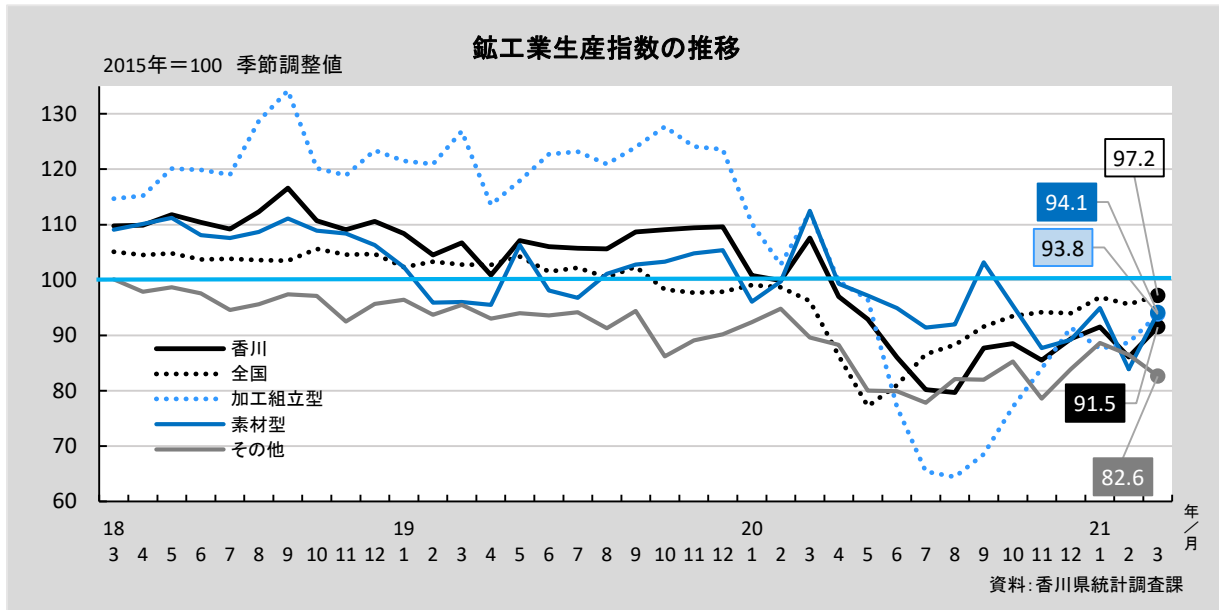
4月の公共工事請負金額は145.3億円で、前年同月比+68.8%と4か月ぶりに増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+63.1%、**県**で同+229.4%、**市町**で同+44.4%となった。

生産活動

緩やかに持ち直している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり上昇 ↑



3月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は91.5（前月86.1）となり、2カ月ぶりに上昇した。

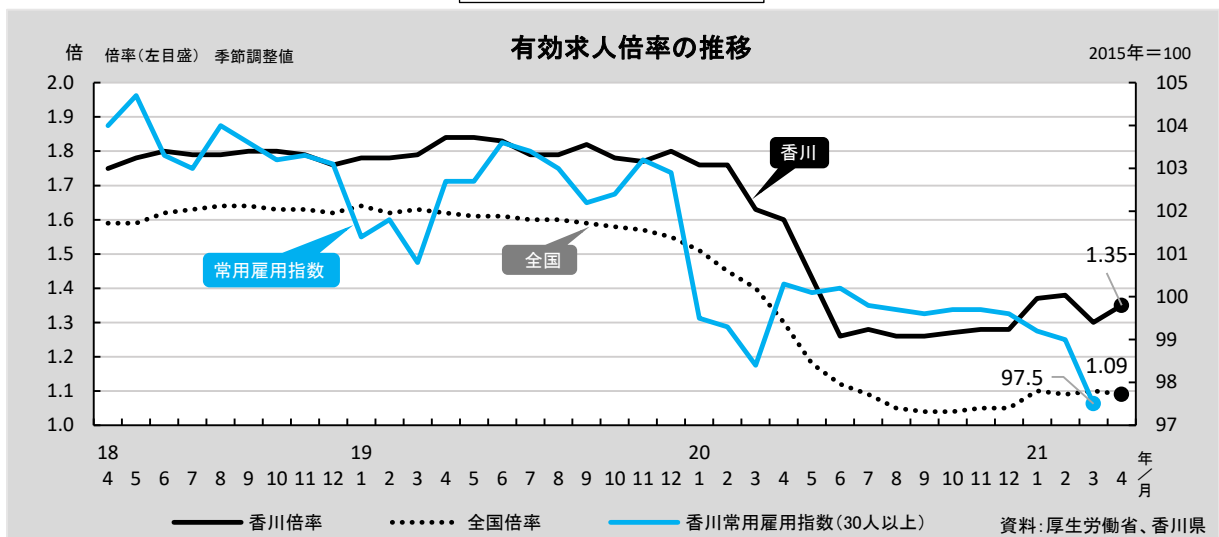
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金）は前月比+49.1%、化学・石油石炭製品工業（医薬品）は同+12.5%と上昇した。一方、その他業種の食料品工業（食用油）は同▲9.4%と低下した。

雇用情勢

弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

3カ月ぶり増加 ↑



4月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.35倍（全国5位）と前月より0.05ポイント上昇した。

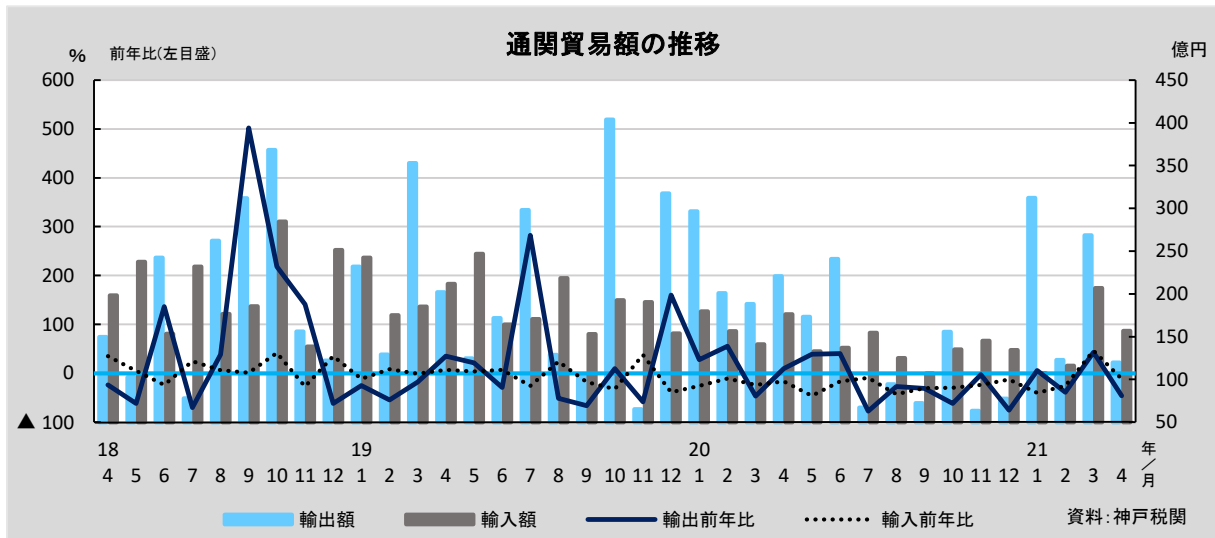
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉、サービス業等で増加し、不動産業・物品賃貸業、複合サービス事業等で減少となり、全体で+16.7%と16カ月ぶりに増加した。

3月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、97.5となり、前年同月比は20カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.75
事務的職業	0.47
販売の職業	1.94
サービスの職業	2.68
生産工程の職業	1.72
輸送・機械運転の職業	2.29
建設・採掘の職業	6.91
運搬・清掃・包装等の職業	0.89

貿易

輸出・輸入ともに弱い動きとなっている



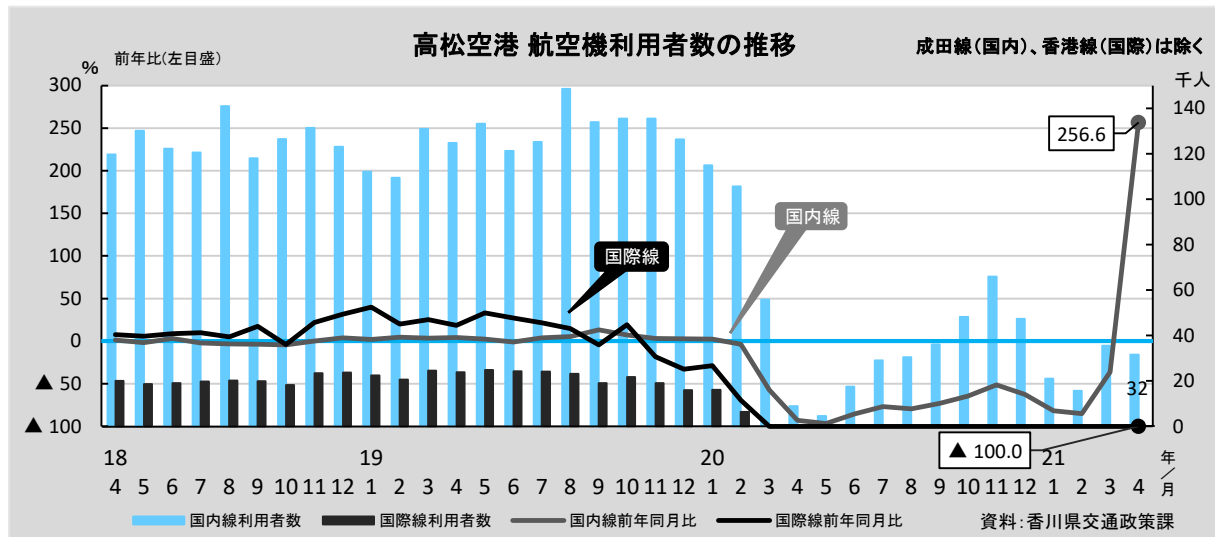
4月の輸出額は前年同月比▲45.8%の119.6億円、輸入額は同▲11.1%の156.6億円となり、差し引き37.0億円の入超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比▲79.8%の27億円となった。輸入は、前年同月に32億円だった液化天然ガス輸入額が全減となった。

交通

国内線は15カ月ぶり増加、国際線は14カ月連続全面運休

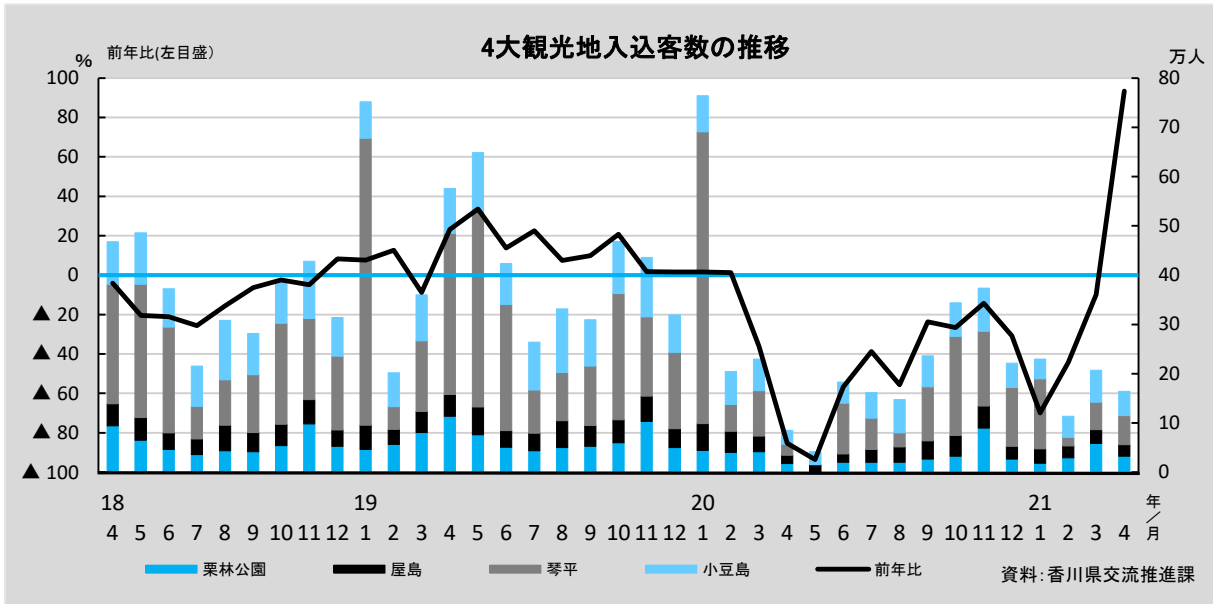
●高松空港旅客輸送実績



4月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が31,587人(前年同月比+256.6%)となり、15カ月ぶりに増加した。羽田線は31,483人(前年同月比+308.2%)、那覇線は104人(同▲90.9%)となった。ただし、コロナ禍以前の2019年4月比では▲74.7%となり、厳しい状況が続いている。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により14カ月連続の全面運休となった。

●主要観光地入込客数

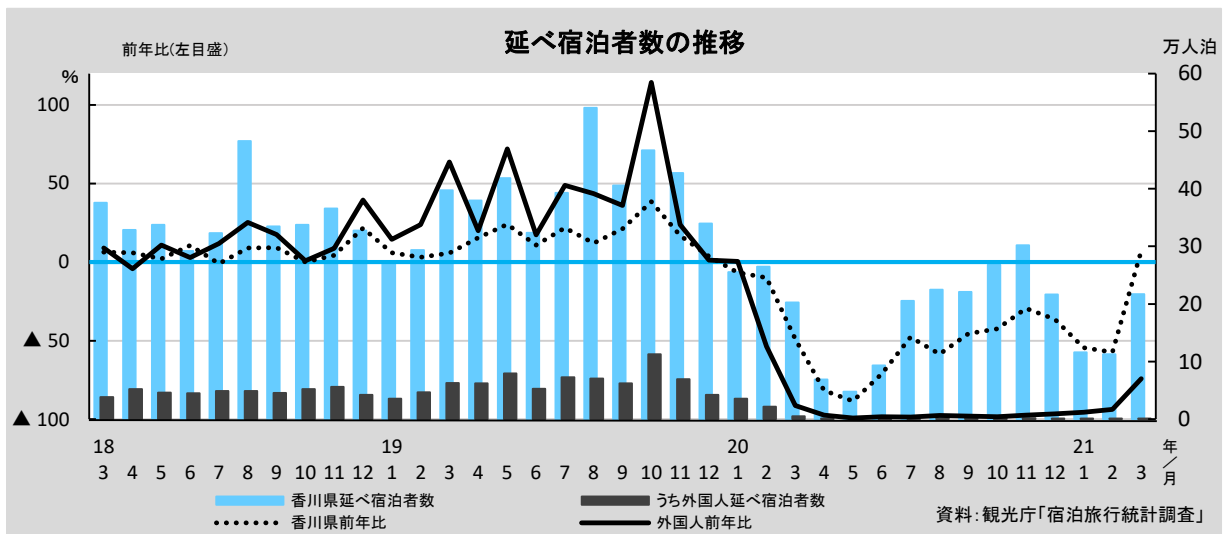


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
4月(人)	前年同月比	32,581	84.8%	23,142	38.6%	59,000	168.2%	49,234	73.0%	163,957	93.4%
1~4月累計(人)		138,059	▲4.1%	104,310	▲28.4%	275,000	▲63.8%	197,182	▲15.4%	714,551	▲44.3%

4月の主要観光地の入込客数は、前年同月比93.4%と14カ月ぶりの増加となったが、コロナ禍以前の2019年4月比では▲71.5%となり、回復にはほど遠い状況が続いている。

1~4月の累計では前年比▲44.3%となった。

●延べ宿泊者数



3月の延べ宿泊者数は217,170人で、前年同月比+7.2%と15カ月ぶりに増加した。コロナ禍以前の2019年4月比では▲45.3%とほぼ半減している。

うち、外国人延べ宿泊者数は1,420人となり、同▲74.1%と14カ月連続で減少した。